

## 授業料不徴収協定に基づく派遣交換留学終了報告書

所 属	理工学研究科		国際開発工学専攻	
氏 名	川崎智也		報告書提出時の学年	学部・修士・博士 2年
留 学 先 国	スイス	留学先大学	スイス連邦工科大学チューリヒ校 (Program II)	
留 学 期 間	2009年 6月 22日 ~		2009年 9月 20日	

### ① 留学先大学についての概略

ETH はスイスの産業都市であるチューリッヒに位置する連邦工科大学である。15 の理工系学部から構成されており、過去に 21 人のノーベル賞受賞者が ETH 関係者であり、アインシュタインの出身校としても知られている。なお、もう一つの連邦工科大学はローザンヌに位置している。

### ② 留学前の準備

- ・学部: 研究室配属、学士論文研究、就職活動または大学院入試と留学との兼ね合いを含め、卒業までの計画
- ・大学院: 就職活動、修士・博士論文などとの兼ね合い、修了までの計画。その他、派遣交換留学情報の入手方法、専門分野・語学の準備方法、留学先の研究室に所属した場合、留学先大学の指導教員との準備、ビザ取得方法、住居の探し方など

博士 1 年後期の 3 ヶ月を利用して留学した。留学開始時点で博士論文を仕上げるまで 2 年弱残っていた。そのため本留学では、博士論文をほとんど意識せず留学準備にあたった。ただし、留学終了直後に博士研究に関連する現地調査が控えていたため、留学先でも準備出来るよう、関連書類を数点準備した。留学に関する情報収集は基本的に留学交流課のホームページを利用した。ただし、それだけでは不十分なこともあり、留学交流課に直接問い合わせたり、私と同じ Program II で ETH に留学されていた方にメールを通じて情報収集にあたった。現地の住居とビザの二点に関する情報である。住居は留学先研究室の秘書が紹介してくれたが、チューリヒの家賃相場が不明であったことから、情報収集にあたった。ビザに関しては、滞在がビザ不要期間である 3 ヶ月を 6 日越えるため、やや複雑な手続きが必要であったことから情報収集にあたった。なお、3 ヶ月を越える滞在中では、ビザ取得が必要であることに加え、スイスの保険会社（あるいはそれに相当する保険）に加入することが義務づけられている。私の場合は日本の保険会社で許可してもらったが、例外だそうである。保険加入制度は若干複雑なので、詳細を知りたい場合は現地の担当者に直接連絡を取ることを勧める。

### ③ 留学中の勉学・研究

#### 授業登録の有無、授業や研究方法についての感想

留学中は主に現地で与えられた研究に従事していた。研究室ではデスクを与えてもらい、ほぼ毎日研究漬けの日々を送った。一部屋 4 人で、全て PhD の学生である。研究施設は申し分なく、多少贅沢を感じる程だった。念のために書いておくと、東工大も施設は素晴らしいと思う。ETH の施設がより素晴らしいだけである。なお、講義は一つも受けていない。

### ④ 留学中に行った勉学・研究以外の活動

#### ボランティア、インターン、旅行、スポーツなど、幅広く体験を教えてください。

留学中はスイス国内旅行・海外旅行を数多くした。スイスが今年 3 月にシェンゲン協定(空路)に加入したため、海外旅行がより容易になったことも影響している(陸路のシェンゲン協定加盟は昨年 12 月)。旅行は行けば行くほど病みつきになり、時間が許せばさらに旅行したかった程である。

⑤ 留学費用について

渡航費、生活費、住居費、保険料、奨学金の有無など。

留学の奨学金として、東工大百年交流基金を月額 10 万円(計 30 万円)支給していただいた。渡航費、生活費など留学に関わる全ての費用を含めて3ヶ月 30 万円である。スイスは物価が高いこともり、財務的には結果的に約 10 万円の自己負担となった。

⑥ 留学先での住居について

寮の有無、申し込み方法、ルームメイト、その他

大学の寮はチューリヒ郊外にあるようだが、一度も行っていない。私は Honggerberg キャンパスからバスで 6 駅(時間でいうと約 10 分)の Wihhersteig にある市立病院が所有するアパートを借りていた。部屋は一人用で、シャワー、キッチン、トイレはフロアで共有した。このアパートは決して快適とは言えないが、値段が手頃なので、経済的に余裕がない人にはお勧めである。なお、アジア人が多く住んでいた。

⑦ 留学先での語学状況

例えば、授業、研究には〇〇語が必須だが、生活は〇〇語を利用。留学前の TOEFL 等語学試験は、〇〇だったが、十分であった(2, 3ヶ月は苦勞した)など。

研究室内は英語ができれば問題ない。先生もスタッフも皆英語に堪能である。隔週で開かれるランチセミナーは英語で行われる。しかし、スタッフミーティングはドイツ語でフォローできなかったため、参加を免除されていた。

⑧ 単位認定、在学期間について

留学中に取得した単位の認定を東工大で行ったか(行う予定か)? 在学期間の延長を行ったか?

前述の通り、講義は一つも取っていないので、単位認定は行っていない。また、在学期間の延長も行っていない。

⑨ 就職活動について

留学先で行ったこと、また帰国後どのように活動する(予定)など。

就職活動も行っていない。

⑩ 留学先で困ったこと(もしあれば)

チューリヒは英語が通じる店がほとんどで、英語ができれば生活にはあまり困らない。しかしチューリヒ市からの書類(重要なものも含めて)は全てドイツ語である。こちらは研究室の秘書に助けてもらった。前述の通り、チューリヒでは英語が出来れば生活できる。しかし、ドイツ語が出来れば留學生活はなお快適なものになるのは間違いない。

⑪ 派遣交換留学を希望する後輩へアドバイス

日本の大学とは異なるシステムの研究室に所属できたことが最も貴重な体験だったと思う。日本では学部、修士、博士の学生が所属するのが一般的だが、スイス(他の国は知らない)では博士学生以上のみである。ちなみに、私が所属した研究室は教授 1 名、客員教授 1 名、客員准教授 1 名、ポスドク 2 名、博士学生 18 名の計 23 名で構成されていた。そのため、毎日の会話が論文や学会の話題になることも多く、多くの刺激を受けた。普段とは異なる環境に身を置いて研究出来るのは非常に貴重な経験だと思います。ぜひ、トライしてみてください。